

鳥取県病原微生物検出情報

(令和7年7月検出分 検体採取 令和7年6月及び7月)

令和7年8月22日

鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体 59 件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

検査対象（ウイルス）

ライノ、メタニューモ、インフルエンザ-A 型及び B 型、パラインフルエンザ 1-4、RS-A 型及び B 型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナ NL63 (※)

検査対象（細菌）

百日咳菌、*Bordetella holmesii*、*B. parapertussis* (※)、マイコプラズマ (※)

※印は5月21日搬入検体分より実施。

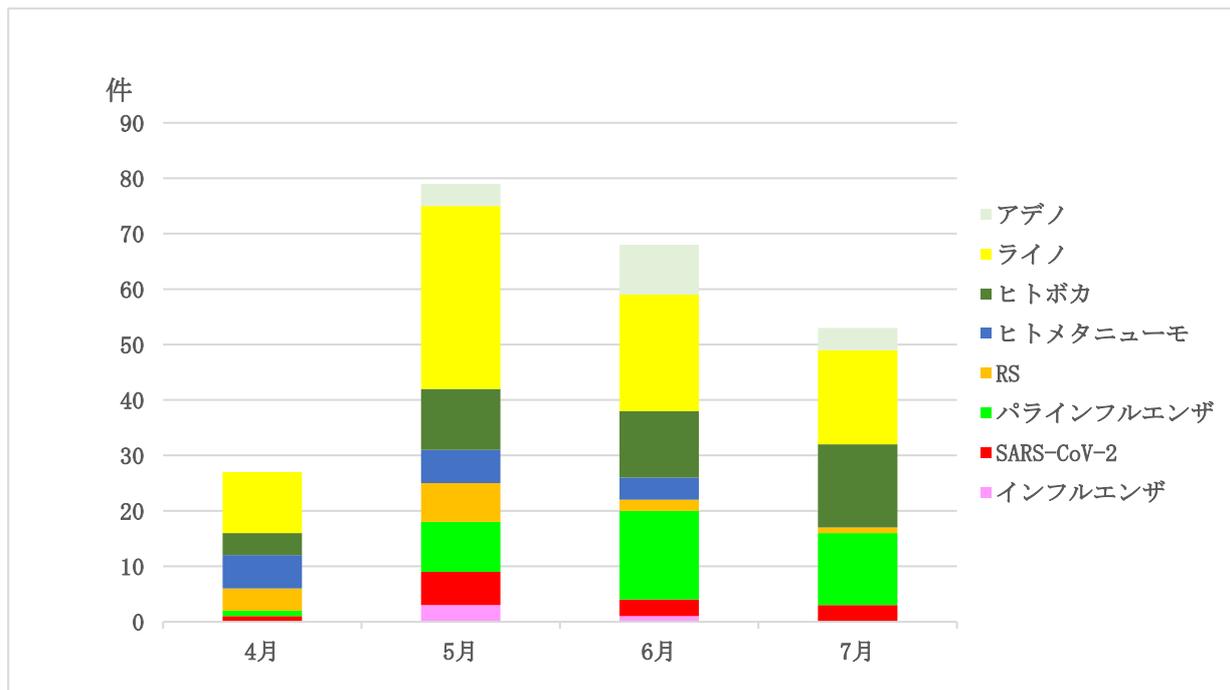
検出結果

59 件中 37 検体 (63%) から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ：17 件、ボカ：15 件、RS-A 型：1 件、SARS-CoV-2：3 件、パラインフルエンザ 1：1 件、パラインフルエンザ 3：10 件、パラインフルエンザ 4：2 件、アデノ：4 件、百日咳：1 件、マイコプラズマ：1 件であった。4 月から 6 月検出分と合わせた年齢別検出数は表 1 のとおり(ただし、検出件数は重複検出を含む)。

表 1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数 (令和7年4月～7月検出分)

病原体	年齢別検出数 () は標本数を示す									合計
	0-4 (98)	5-9 (13)	10-19 (7)	20-39 (13)	40-59 (35)	60-69 (26)	70-79 (21)	80-89 (11)	90-99 (7)	
ライノ	54	6	4	6	6	3	3	1		83
ボカ	39	1					1	1		42
ヒトメタニューモ	9				1	4	2			16
RS-A					1		2			3
RS-B	9	1							1	11
SARS-CoV-2	3	1		2	3	1	2	1		13
パラインフルエンザ1	1						1			2
パラインフルエンザ3	15				6	3	2	2	2	30
パラインフルエンザ4	7				1					8
アデノ	14	1		2						17
インフルエンザB型	1		2		1					4
百日咳		1				1				2
コロナ NL63	2									2
マイコプラズマ	1	1	1							3
検出せず	11	3	1	7	16	14	10	6	4	72

図 1. 月別主要ウイルス検出状況（令和 7 年 4 月～7 月検出分）



アデノは 2 型が 3 件、5 型が 1 件であった。アデノ 2 型及び 5 型は急性呼吸器感染症の原因となるウイルスである。昨年同時期に流行した咽頭結膜熱の原因ウイルスであるアデノ B 種（3 型など）は、検出されなかった。

百日咳 1 件はマクロライド耐性であった。

SARS-CoV-2 の系統は表 2 に示すとおり、NB. 1. 8. 1 が 5 件、XEC. 4. 2 が 1 件であった。

NB. 1. 8. 1、XEC 系統は、いずれも WHO の指定する監視下の変異株であり、NB. 1. 8. 1 は、2025 年 2 月以降東南アジアで増加している系統で、今後の動向に留意が必要である。

表 2. SARS-CoV-2 ゲノム解析結果（令和 7 年 7 月検出分）

検体採取年月日	年齢	型別
R7. 5. 27	53	NB. 1. 8. 1
R7. 5. 30	72	NB. 1. 8. 1
R7. 6. 2	1	XEC. 4. 2
R7. 7. 7	72	NB. 1. 8. 1
R7. 7. 9	48	NB. 1. 8. 1
R7. 7. 9	68	NB. 1. 8. 1

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の 9 件について検査を行ったところ、アデノウイルス 1 型が 1 件、サポウイルスが 3 件検出された。アデノウイルス 1 型（C 種）は感染性胃腸炎と診断された患者便からよく検出されるが、扁桃に持続感染し小児の糞便中に間欠的に排出されるため、感染性胃腸炎との因果関係は明確ではない。ノロウイルスは検出されなかった。

3 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 6 件について検査を行ったところ、A 群溶血性レン

サ球菌が2件分離され、T1型1件とB3264型1件であった。T1型及びB3264型は咽頭炎で多くみられる型である。

4 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの3件について検査を行ったところ、エンテロウイルスが2件検出された。

5 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の1件について検査を行ったところ、ムンプスウイルスは検出されなかった。

6 細菌性髄膜炎

臨床診断名が細菌性髄膜炎の2件（新生児、髄液）について検査を行ったところ、B群レンサ球菌（*Streptococcus agalactiae*）や大腸菌等の原因菌と考えられる菌は検出されなかった。

7 水痘

臨床診断名が水痘の2件について検査を行ったところ、いずれも水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。